

がふ



ことしは

福を招く「ひつじ年」

昭和54年（西暦1979年）は12支では、「ひつじ年」にあたります。

また、西洋の星占術で、この年の星の配置をみると「木星」が「しし座」に入り、「土星」が「おとめ座」に入っている年です。

むかしから「ひつじ年」は、政治的にも、経済的に

も変動の激しい年といわれています。

一方、この「ひつじ年」には、音楽や絵画、演劇関係の分野では天才が生まれたり、歴史に残るような芸術運動が活発に行われる年でもあります。このほか未知の世界に挑戦しようという人たちが多く、一例をあげれば、北極や南極を探険しようという意欲が高まったのは、いつもこの「ひつじ年」のようです。

【写真・しあわせを呼ぶ「ひつじ」と世界一美しい富士山】



あけましておめ



富士市長

渡辺彦太郎

昭和54年の新春にあたり、市民の皆様に謹んで新年のご祝辞を申しあげます。

昨年は、かってない大型公共事業による景気浮揚策にも拘わらず、依然として景气回復の足どりは緩く、また、地場産業の紙、パルプを中心とした業界の操短や減量経営による企業努力の結果にも景況はさして好転することなく年を越すこととなりました。市の財政もこうした地域経済の動向に少なからず影響を受けながらも、単に現象的不安に埋没するのみでなく、財政の好率的運営と多様な価値観に基づく市民ニーズを的確にとらえ、より福祉の水準を高めるため積極的な予算を編成し、その実現に努力してまいりました。

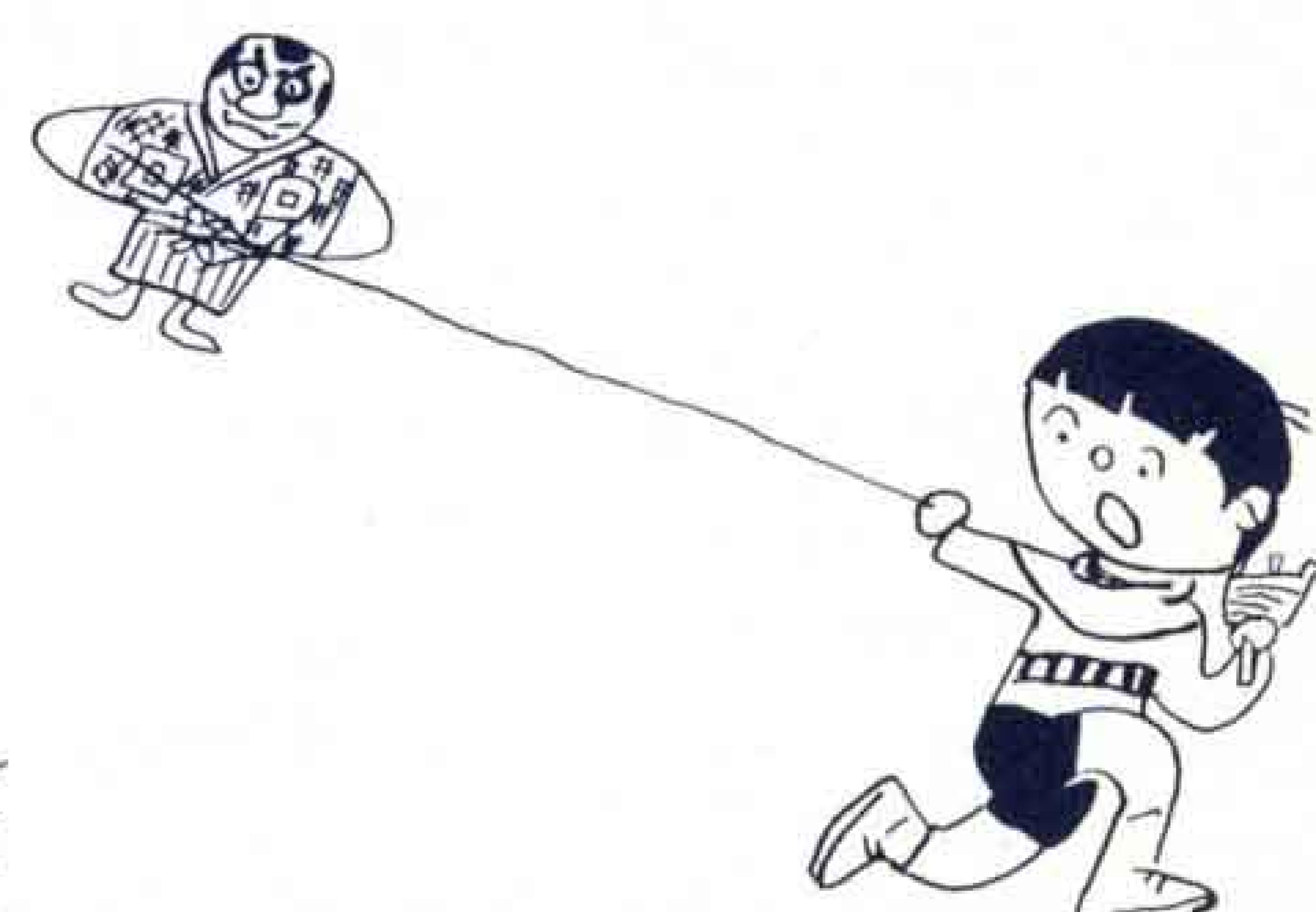
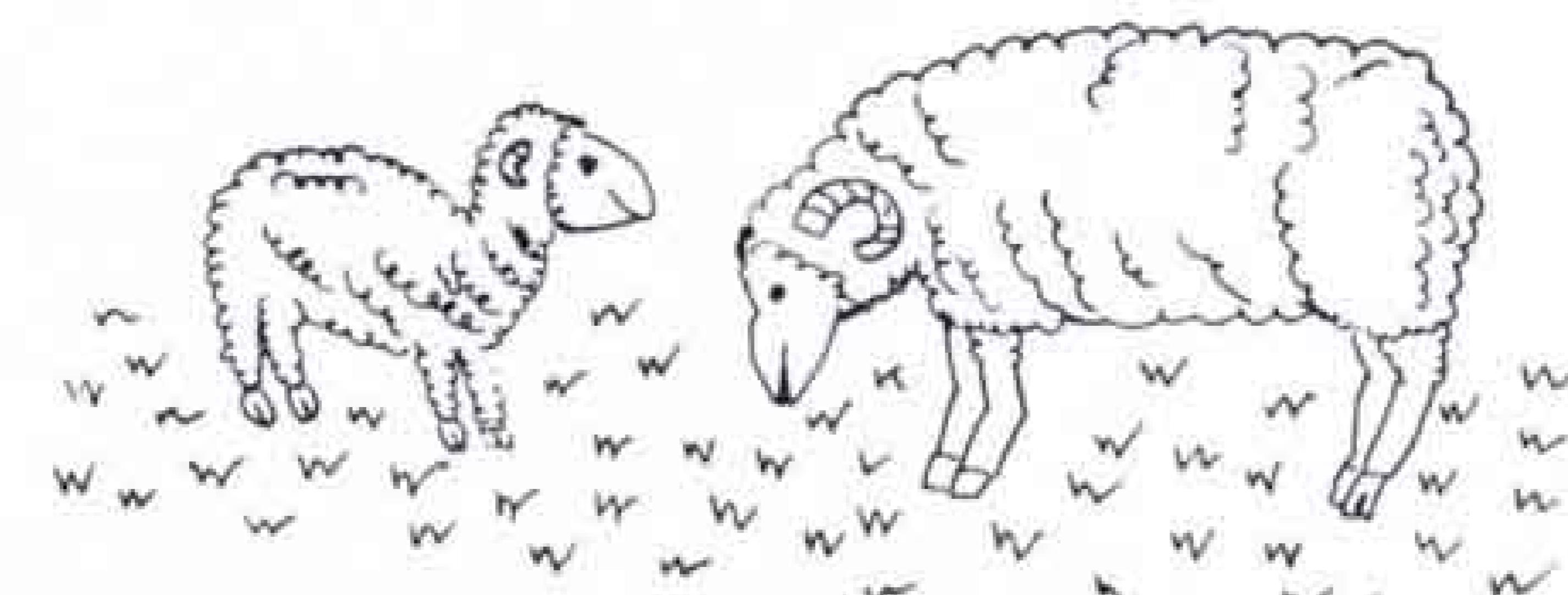
さて、新しい年を迎えたとはいえ、景気の先行きにはなお明るい材料を予測し難い状況ではありますが、群羊が人々に幸運をもたらすという神話の如く、今年は羊年にあやかって、市民の幸福を追求する飛躍の年

産業文化都市をめざして

でありたいと思います。それには、業界が一日も早く不況から脱出し、地域経済に活況が漲ることを期待しなければなりませんが、羊が従順で忍耐強い動物であるように、市政もまた、変革への対応という厳しい課題に当面しながらも柔軟で忍耐強く市民の幸せを求めて前進する努力が必要です。

当市では、昨年来巾広い市民各層の討議と合意のなかから、昭和60年を目標年次とする新総合計画の策定をすすめてきましたが、本年は、この計画に基づく新しい都市像による市民が安全、健康、快適かつ能率的な生活が保障される都市の構造を目指して、各般の施策を展開する所存ですが、具体的には市民医療や地震災害対策など市民の命と健康を守る施策及び下水道、区画整理、し尿プラントを始め、公園緑地等の都市基盤整備事業ならびに市民の連帯と福祉の環境づくりをすすめる老人ホームの統合整備、こどもの遊び場等の設置と、さらには教育環境施設、郷土博物館の建設、総合社会文化会館構想の策定など、教育文化の水準を高めるための施策、中小企業や農林漁業の振興を図る事業、特に製紙スラッジの焼却プラント建設推進など懸案事項も含めて積極的な努力を傾注するとともに、20万市民が創造する産業文化都市を目指して意欲的に取組む決意でありますので、変わぬご支援とご協力をお願い申しあげる次第であります。

おわりに、市民の皆様のご健康とご多幸を祈念し、年頭のご挨拶といたします。



てとうござります



80年代へのビジョン

富士市議会議長
中井浜次郎

新年を寿ぎ、今年が共々によき年でありますよう心から祈念いたします。

激動の1970年代もこの一年を残すのみとなりました。新生富士市にとってこの70年代は、20万都市としての再開発的基盤整備と、将来の都市像に対する意欲的線引きの年代であったと思われるとき、この年はその一応の区切りのときであり仕上げの年であろうかと思います。

幸い迎えた「羊年」は、干支（えと）からいうと未来を予知し、幸福をもたらす年だといわれています。是非そうあってほしいものだと期待するものであります。

中核都市としての立地機能の整備、水廃棄物、防災等市民の生活基盤の充実、

福祉の共同社会性等々一連の行政施策に対して、議会は、常に市民意識を現実としてふまえた将来展望の中で、議会活動を開展するとともに、市当局に対しても多くの提言をいたしてまいりました。そしてそれらは市民各位の勤勉性と、英智による経済不況の克服により、大方の自治体が財政危機を訴える中にあって、当市はめぐまれた財政力を堅持し、さらに行政に対する市民みなさんの関心と、理解によって一部の遅れ、或いは今後にもまだ課題を残すものがあるとはいえ、基本的には概ね順調に推移しつつあることはご同慶に堪えないところであります。

今後の富士市の将来像については、昨夏市当局から提示された、昭和60年を目標とする「新総合計画」により、既に関係方面の協議過程を終り、近く議会審議となります。議会といたしましては、この計画が本来の意味での富士市の将来像の基礎となることを考え、この策定に当っては慎重に対処する所存であります。

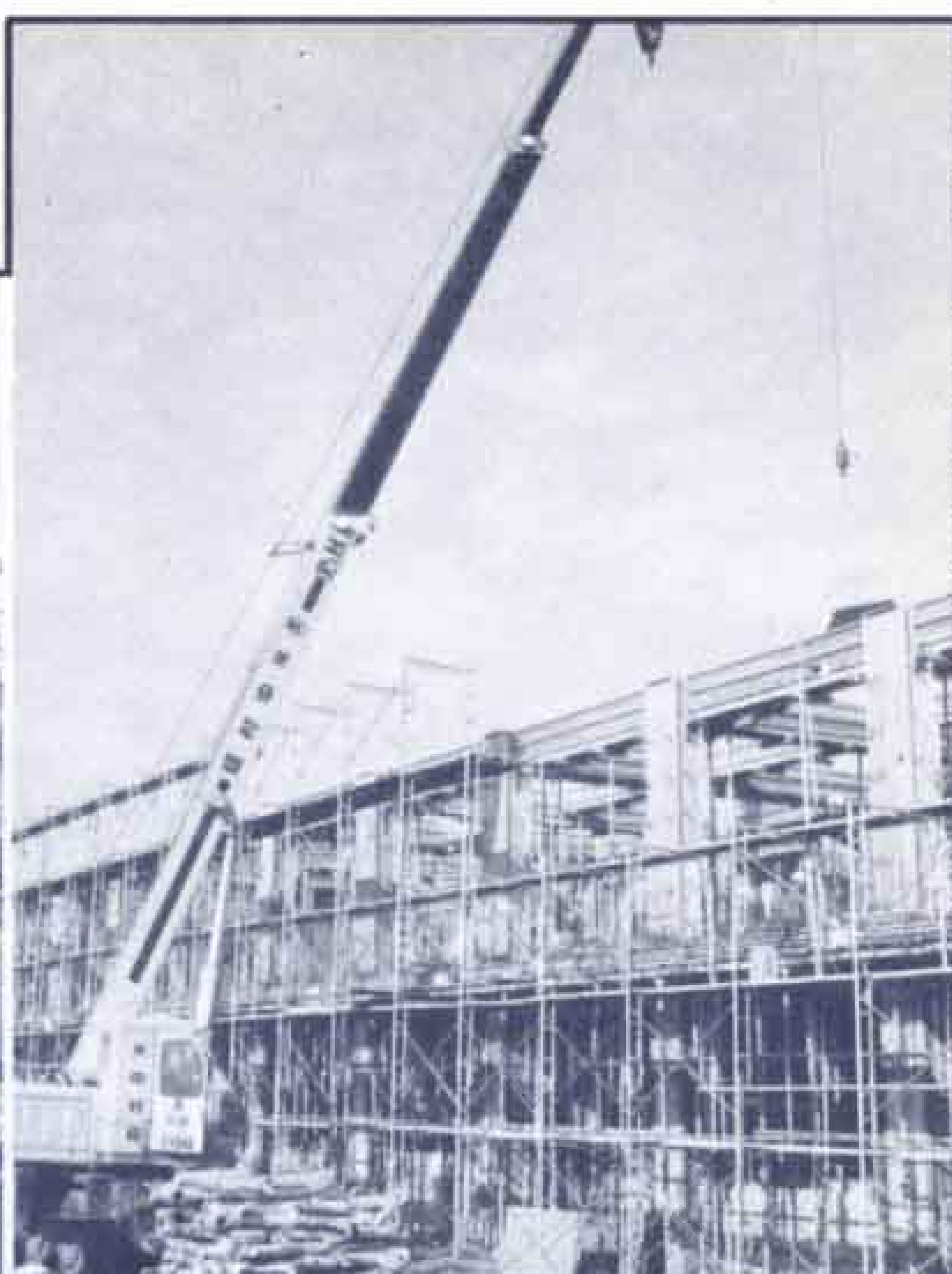
議会と行政執行機関である市当局とは常に市民生活の向上をねがうということにおいて、車の両輪の如き存在にあることはご承知のとおりであります。

議会は議会としての尊厳を保持し、今後とも市民みなさんの信託のもと、議会活動に邁進いたしますことを申し添え、新年のごあいさつといたします。



東小学校改築工事（西船津）

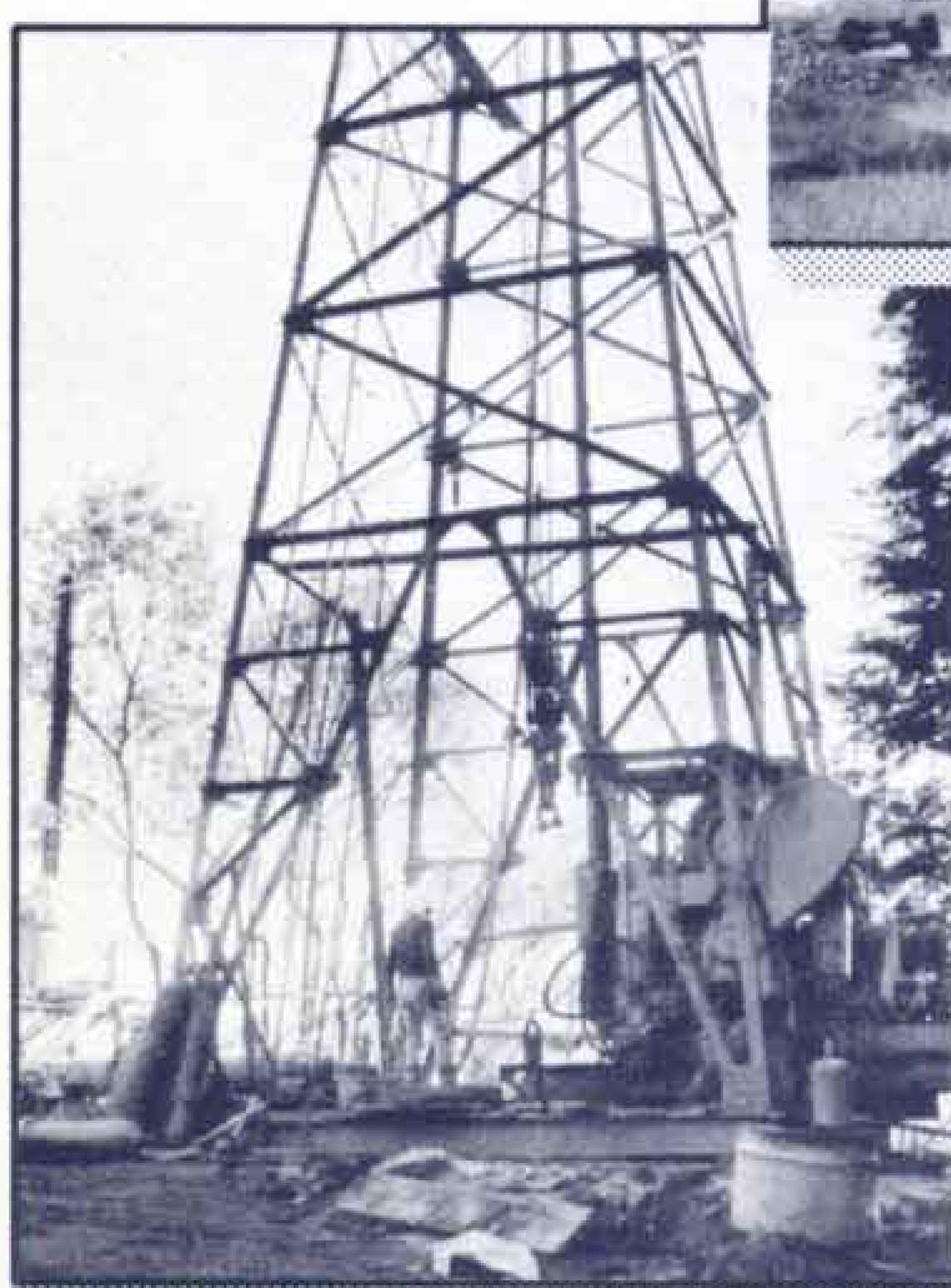
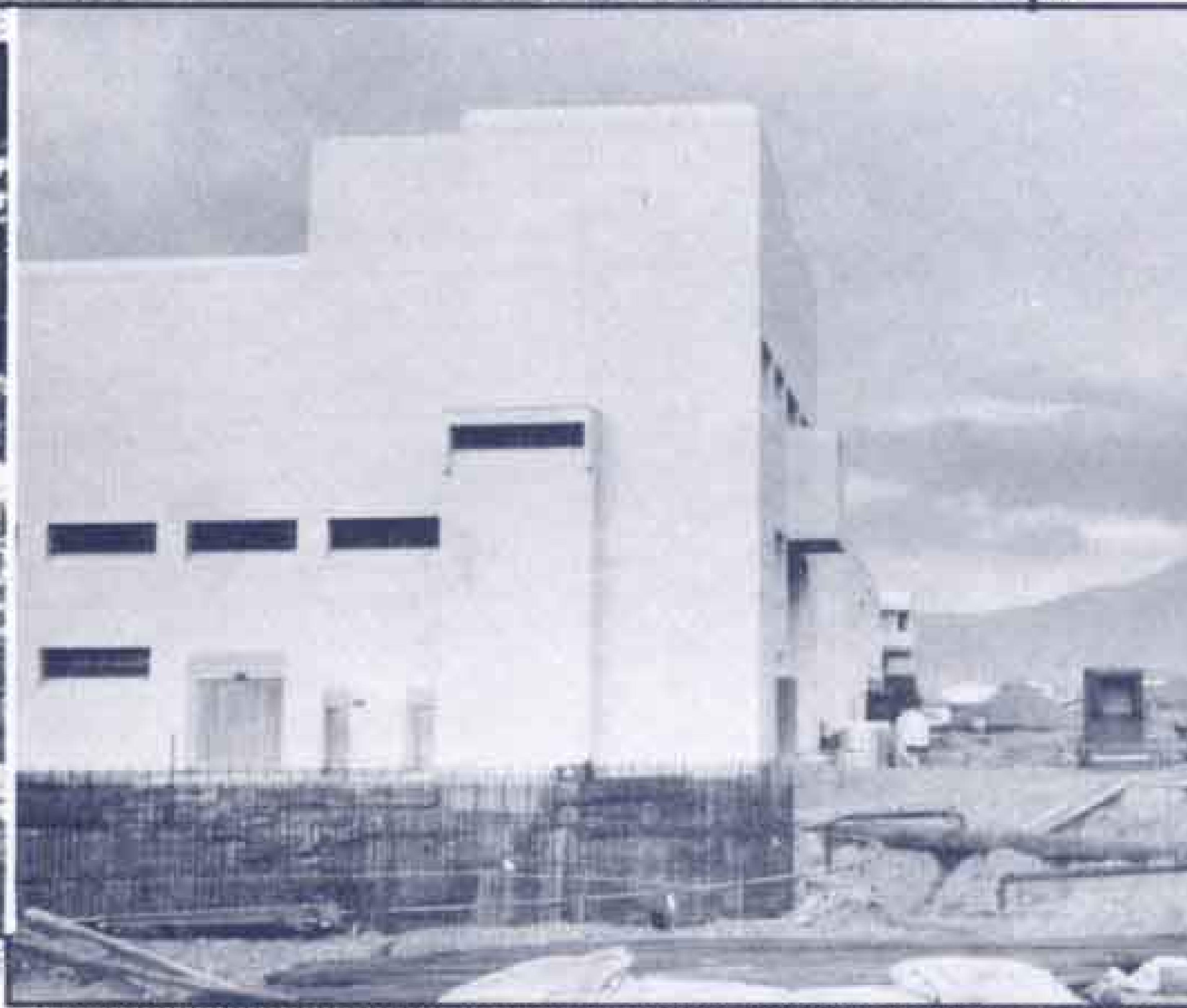
吉原第2中学校舎改築工事（今泉）

富士見台市営住宅新築工事
(富士見台)

市は、昭和53年度事業として、いま市内の各所でいろいろな工事をすすめています。

明るい市民生活と豊かな街づくりをすすめるためのこれらの工事は、11月末現在、すでに発注した工事請負件数は279件で、約44億円になります。

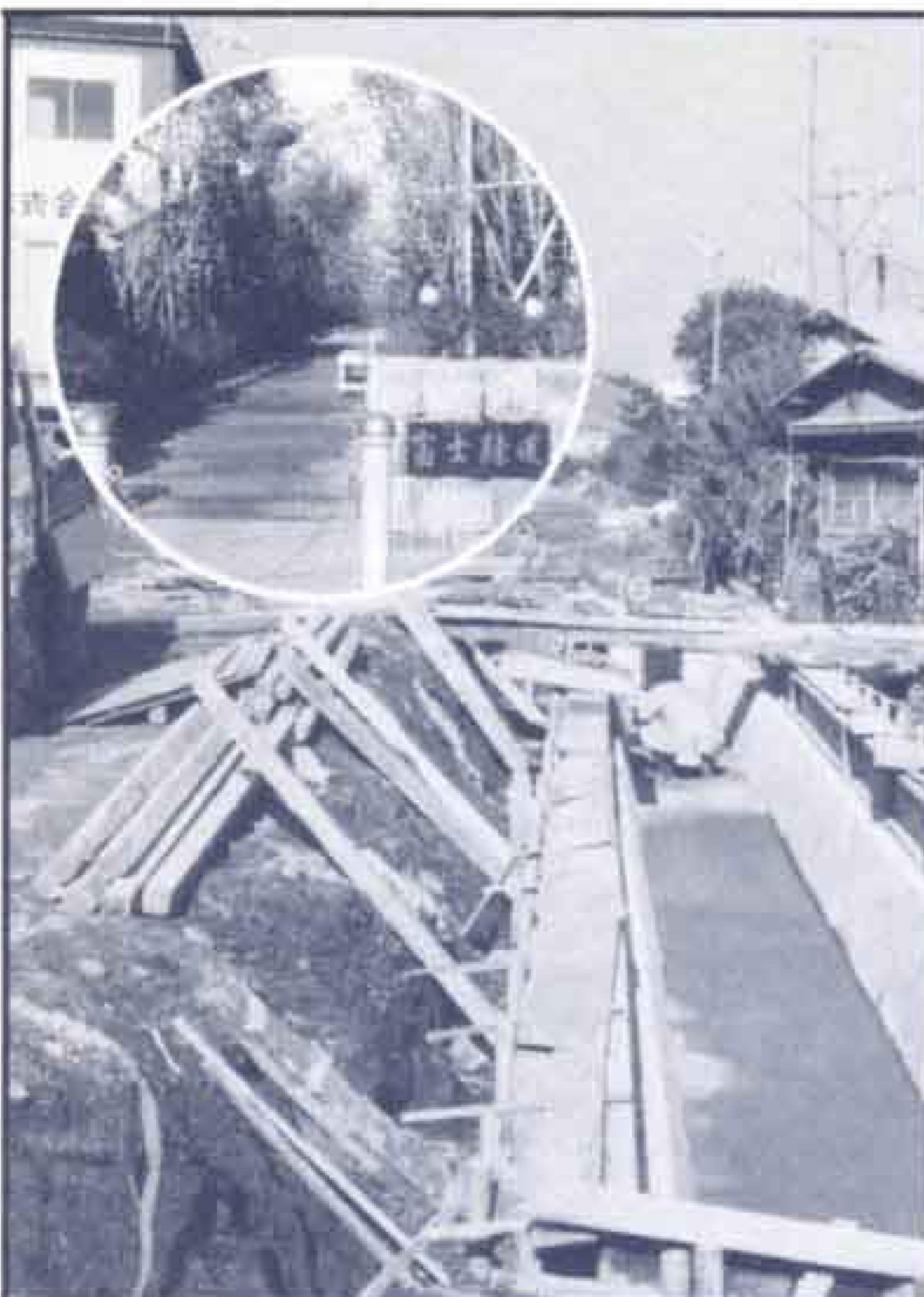
今後、80件～100件ぐらいが予定され、総額で約60億円(昨年の実績360件で48億円)が見込まれています。

吉原下水処理場改良工事
(依田橋)富士團4号水源池さく泉工事
(三ツ沢)

富士下水処理場新設工事（新浜）



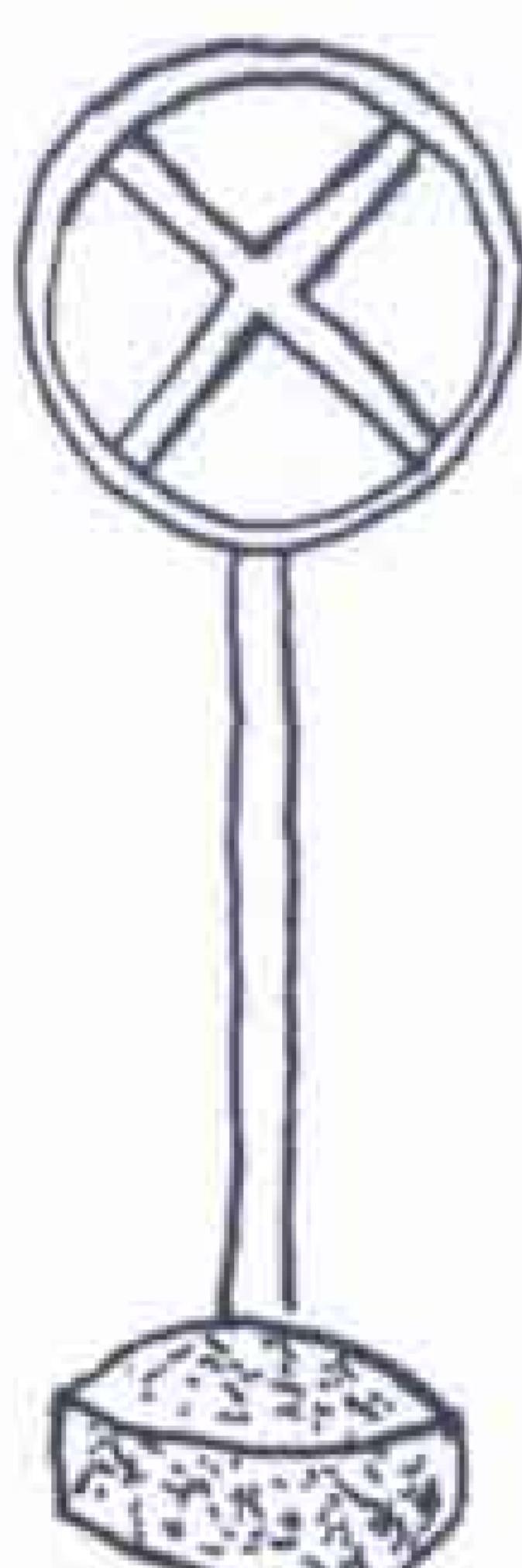
富士緑道造成工事（国久）



富士駅前区画整理事業（平垣）



工事中



「ただいま工事中」の
主なものを拾ってみます。

富士駅周辺の区画整理事業をはじめ、55年度から供用開始予定の富士下水処理場、および吉原下水処理場増設工事、吉原第三中学校々舎改築工事、天間小学校の新築工事、大渕第一小学校および富士見台小学校の体育館建設や東小学校、吉原東中学校の改築、市営住宅の建設、水道工事、河川改修工事、土地改良事業などがあげられます。

ここに継続事業を除き、年度内完成をめざして工事が急ピッチにすすめられている現場写真を掲載し、市民のみなさんに紹介します。

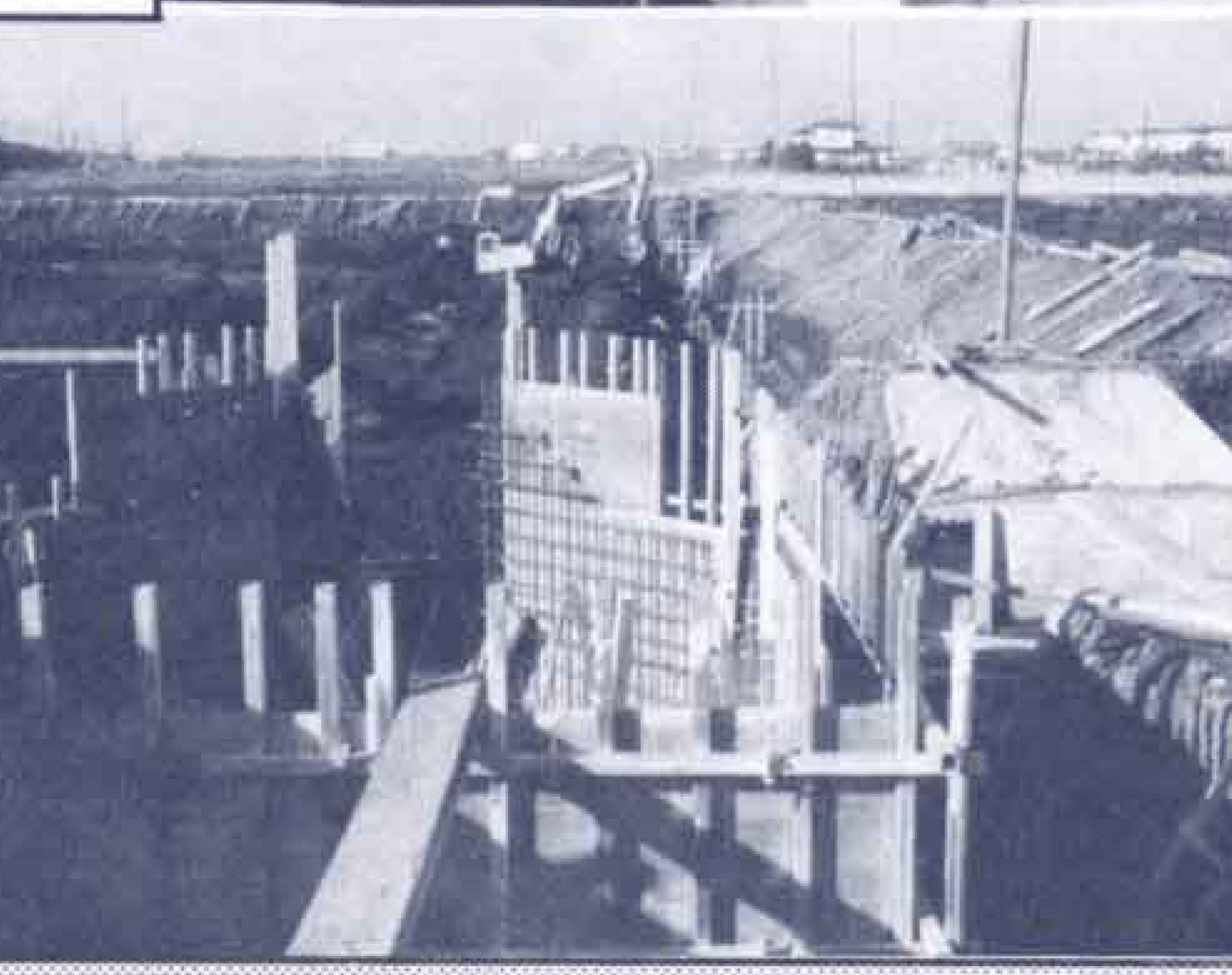
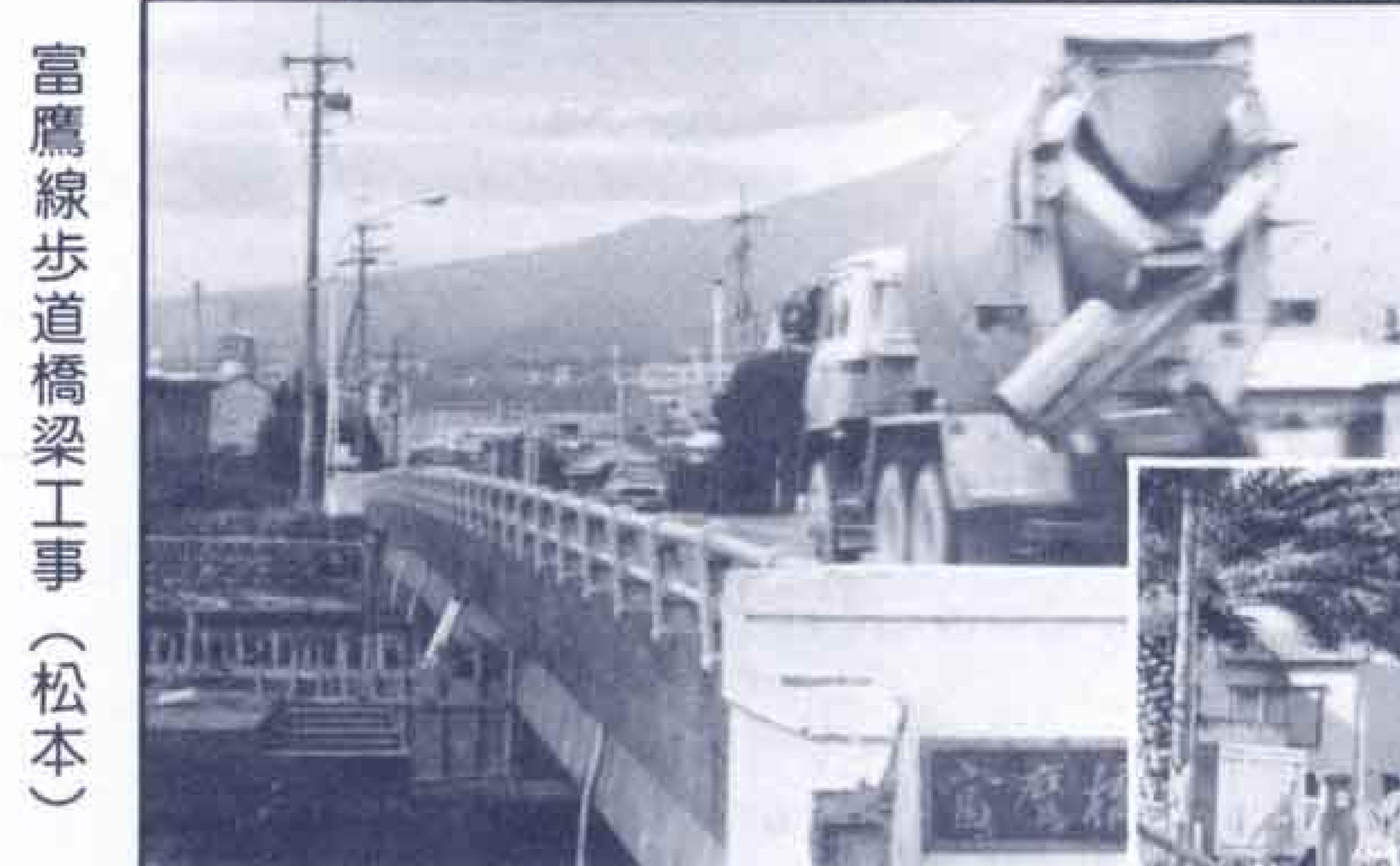
林道、黒坂線新設工事（千束）



県单田子浦臨港線改良工事（三日市）



富鷹線歩道橋梁工事（松本）



県営ほ場整備事業（中里）

平垣前堀改修工事
(本市場)

20歳をむかえて

私はこう生きたい

成人代表6人から抱負を聞く

20歳の成人を迎えた皆さん、明けましておめでとうございます。ことし、市内で大人の仲間入りする成人は2,698人あります。昨年は、インフレと不況、円高など目まぐるしい経済情勢の中に明け暮れましたが、この間、日中友好条約の調印や、大平新内閣の誕生などホットなニュースもありました。

また、ことしは、「羊の年」干支（えと）か

ら、しあわせを呼ぶ年ともいわれ、市にあっては、昭和60年を目標とする「新総合計画」がいよいよ具体化し、未知に向って大きく飛躍する年でもあります。

そこで、ことしは、成人を迎えた6人の代表から、「私は、こう生きたい」というテーマでことしにかける夢や希望などその抱負を卒直に聞いてみました。

私の選んだ道

小野 弘恵さん(中里4)



私は今、某音大の1年生。すでに進むべき道が見えてくるとでもいえましょうか。今まで私が歩んできた道。これから歩もうとしている道が果して自分自身に対してよかつたことなのか、今だよくわかりませんが、決して間違っていたとは思っていません。

私は小学校1年生の時からピアノを習ってきており、始めは好きでもない、嫌いでもない、いわば趣味程度の習い事にすぎなかつたのです。それがどうでしょう。高校に入る時点で音楽高校と、早くもここで音楽という枠にはめ込んでしまったのです。そう、能動的に自分の将来を決定づけたのです。小さい時から続けてきたことをそのまま将来へ向けられる。そう思った時の満足感というのは、このうえないものでした。しかし、この間、挫折というものを何度も経験したことか、や

めてしまいたい時もありました。

友だちが遊んでいるのを見て、何故私だけがこんなことを……と幼心に思うこともしばしばありました。そんなとき、いつも救ってくれた

のが母でした。そして私が音楽で身を立てることができるならば、それは親孝行であり、また感謝の意を表すことでもあると思うのです。

私は今まで続けてきました。それでも切り離すことのできない音楽との縁は、これからもずっと続けていきます。これが「私の選んだ道」だから。

(大学生)

失敗は二度やらない

大沼 要三君(本市場)



早いもので、はや2年が過ぎようとしています。この間を振り返ってみると、富士山を見ながらの寮生活、会社での仕事で見るもの、聞くもの触るものが、すべて新しく興味深いものです。特に寮生活を体験したことで、学生時代両親の手の中で、ずいぶん甘えていたんだと思うようになったきょうこのごろです。

私もこの11月で20歳になり、一応大人の仲間入りをしたわけですが、

期待と不安を胸に抱きながら、この大興製紙の門をくぐってから

今後は本当の大人になるために、自分の進む道をはっきりし、社会人としての自覚を持ち、すすんでいきたいと思います。

人間であるから、失敗もあります。一度失敗したことは、二度とやらないように、自分自身に納得のいくまで勉強していきたいと思います。

こういうことを土台にして、その土台を一步一步踏みしめて、本当の大人に早くなりたい。20歳は、青春の真っ只中だ、その真っ只中にいる俺、中途半端では終らせたくない。

この社会に入ったのは、人が選んだわけじゃない。自分で選んだ道だ一生懸命頑張るぞ。

(大興製紙勤務)

私はこう生きたい

菊地 晴彦君(鮫島)



早いもので、社会人として2年の歳月が過ぎ、成人を迎えよう

しています。今まで自分なりに目標を持ち、厳しさを持って生きてきました。そして、離れて住む親に心配をかけないようにと思ってきました。ある時には、自分という存在がいやになり、逃げ出したくなる事も幾度かありましたが、とにかくここまで無事になにもなく、これたことを嬉しく思っています。

迷わず進む



私が青年活動に参加してから2年がたとうとしています。社会人としてなれ

ない毎日を過ごしていた私が、偶然に知った青年団には、会社では得ることのできないすばらしい人のつながりがありました。

入団当時、女子団員はわずか3名(うち同級生1名)とさびしい限りでしたが、そのかわり、会社での出来事から、個人的な不安や悩みを親身になって聞いてくれ、アドバイスしてくれる男性団員もいて、それはそれで私の生き方に大いにプラスとなっています。

現在、書記、会計という役職をもち、女子新入団員10数名をひっぱっていく立場ともなっています。

ここで考えたいのは、青年団自体の意義です。年こそ18歳から30歳ぐらいまでと違いはありませんが、同じ目的と地域にいる若者の集まりです。その中には友情もありますし、

20歳になると選挙権が与えられ、社会的責任を持たなければなりません。今までのような子供的考え方ではなく、大人的なしっかりした考え方を持ち、立場を考えて行動して行かなくてはなりません。難かしい事

だと思います。今の私にできることは、人への感謝の気持ちを忘れずにお互いが見て見ぬ振りをせず、助け合って行くことだと思います。

大人、子供を問わず今の人達の中には、感謝の気持ちを忘れている人が多いように思われます。

自分だけでも……とは大げさですが、忘れずに生きてゆきたいと思います。

(旭化成工業勤務)

悔いのない人生を

西村 修治君(新橋町)



生まれて20年たった現在、自分自身がどんなに変わった事でしょう。

昨年の私、一昨年の私、それぞれ違った顔をしていた様に思い出されます。

これからは、自分の持てる精一杯の力を出し、仕事にスポーツに努力し、今

まで以上に社会のこと、政治経済のことにも目を向けて行きたいと思います。これから年をとっていき、「あの頃は……」と思い出せれば、その頃が青春だったと思って良いのではないかでしょうか。又、努力したからこそ、青春の日々の思い出として残るでしょう。自分に対するこれからの課題として、「自分自身にどれだけ満足の行く、又、後悔をしない生き方をするか。」をかけ努力して行こうと思います。(日産吉原工場勤務)

加藤てるみさん(神谷1)

恋愛もあります。時には反発しあいながら過ごしています。それだけでも青春を十分謳歌しているといえるのではないでしょうか。

でも私は思うのです。誰が選んだものでもない、自分自身で選んだ道、青年団活動です。活動を通じて人間同志のつながりをもち、それを維持することができたら、すばらしいと思います。

(須津青年団)

自分自身に「何か」を

菅原 敏江さん(依田橋町)



「20歳」よろこんでいいのか、悲しんでいいのかいつの間にか20年という年

月が過ぎて、私も「20歳」という大人になっていました。そして気がつくと、人生という長い道程の転換期に立っていたのです。いつかこんな日が来ることはわかっていたのに…

しかし、ここでもたついていてはいつまでたっても「人生の明日への

船」には乗れません。自分だけとり残されてしまいます。そのためにはこのからの自分を見つめていくための「何か」をつかむことです。

「20歳」をスタートラインに何にでも挑戦したい。挑戦して「何か」をつかみたい。自分自身の「何か」を…。いま人生の転換期。ゴールをめざして歩き始める私は、自分なりに、自分の長い人生の坂道を一步一步登って生きてゆきたい。まわり道をしてもいい。つまずいてもいい。それが私の人生なら…(興和富士工場勤務)

小林さん(松岡)せん茶で 内閣総理大臣賞を受ける



【写真・総理大臣賞を手に小林さん、渡辺市長と一緒に】

昭和53年度全国農林水産祭で、市内松岡75-5の小林由秋さん(38)が、農産部門(せん茶)でこのほど内閣総理大臣賞を受賞しました。

小林さんは、前年度の第31回全国茶まつりで、農林大臣賞を受けており、ことしはみごとに内閣総理大臣賞の栄誉に輝きました。

現在、小林さんは2ヘクタールの茶園を経営、常に研究熱心で土壤診断を行うほか、徹底した茶園を管理し、地域のリーダーとしても著しい業績をあげ、新しいタイプの営農家として高く評価されています。

「松風学校跡」の記念碑がこのほど市内久沢東の後藤孚さん方敷地内に建立されました。

松風学校は明治12年、初めて校舎を持った小学校で場所はいまの鷹岡小学校正門から用水路ぞいに東へ100㍍ほど行ったところ。碑の高さは約1㍍の黒ミカゲ石に「松風学校跡」ときざまれ、道行く人にその100年の歴史を物語っています。



お正月の餅をつかない 桑崎、鵜無ヶ渕部落 “餅をつくと火にたたる”

昔から桑崎部落と鵜無ヶ渕部落は「餅をつくと火にたたる」という伝説があって、正月用の餅をつきません。でも中には、子どもたちがかわいそうだといって、他村の親類から持ってきてくれたり、ウチの餅をつくったり、あるいは「とじもち」といって、家の奥の方でないしょに餅をついた家もありました。

正月のお餅をおおっぴらではつかないという習慣は、今でもつづいています。しかし近頃では、隣り近所にわからないように機械でつけるようになったので、たいていの家で、いい伝えにこだわらないで餅をついているようです。

なぜ、正月の餅に限ってつかないのか、それはいつごろからなのか明らかではありませんが、部落の古の話をまとめてみますと

「むかし、不作がつづいて大飢饉(だいききん)に襲われ。そして村人が飢え死にするような事態になった。そのとき、この村の領主旗本戸田氏の中里村の陣屋から役人が調査にやってきた。村人は調査の役人に貧困の実情を訴えるために正月用の餅をつかなかった。いやほんとうに餅などつけるような生活ではなかったであろう」といっています。



あるいは、これが餅をつかなくなったほんとうの原因かも知れません。

むかし、鵜無ヶ渕村で、いい伝えを破って、年の暮に餅をついた家がありました。ところがその晩に氏神の社殿が丸焼けになってしまったので、村人は「火にたたった」といって、その後は禁をきびしく守るようになりました。昭和25年3月11日の晩、湾の西風にあおられて、桑崎部落52戸のうち30戸が全焼するという大火がありました。その原因はいろいろな噂がとんで、真相は明らかではありませんでしたが、誰れいうとなく「暮れに正月用の餅をついた家があったからだ。」という噂をしました。

正月用の餅をつかないという習慣は、村の人たちが、火事を極端に恐れたということも、一つの原因だったと思われます。つまり鵜無ヶ渕村にしても、桑崎村にしても、昔は井戸のない水に不便な村でしたから、とくに火について異常な恐怖心と警戒心があつたからで、その上にきわめて切りつめた生活をするということからだったでしょう。

[この文は富士市の伝説と昔話の七不思議の中から抜粋したものです。]

「松風学校跡」の記念碑建つ